

番号	年月日	種別	地区名	担当部	担当課	参加者発言趣旨 (タイトル)	内容(要旨)	懇談会での回答(現状・取り組み状況等)
1	H30.9.18	市政懇談会	笹間	地域振興部 教育部	地域づくり課 教育企画課	花巻市まちづくり計画長期ビジョンにおける笹間未来図について①	「花巻市まちづくり総合計画長期ビジョン」に「コミュニティ会議が作成した地区の長期的な将来像である地区ビジョンを本計画に掲げ、総合計画と一体で推進します。」とあります。 笹間地区の未来図では、西南中学校周辺に【統合小学校】【産直青空市(道の駅)】【味噌加工施設】がある。 また小学校統合後、【高齢者対応施設、郷土芸能伝承施設】を掲載している。 このような構想をどうとらえているのか。	花巻市まちづくり総合計画長期ビジョン」においては、それぞれのコミュニティ会議がまちづくりを進めるにあたり地区ビジョンが資料として掲載されている。コミュニティ会議が立ち上がり10年以上が経過したが、地域では、地区ビジョンを目標とし、地域課題を一つひとつ解決に向けて取り組んでいただいている。笹間地区コミュニティ会議では、「緑豊かな大地、人々を思いやる笹間、～創ろう、守ろう、育てよう～(以下省略)をスローガンに、地域の課題として(1)地域産業の振興(2)高齢者・障がい者の福祉、子育て支援(3)教育振興、文化・スポーツ振興(4)環境保全整備、地域資源の活用を掲げ、地区ビジョンとされていると認識している。これらの課題は、市としても課題としてとらえており、花巻市まちづくり総合計画長期ビジョンにおいて、まちづくりの基本政策として、それぞれ「しごと」分野、「暮らし」分野、「人づくり」分野及び「地域づくり」分野等においてプランを策定し、地域のビジョンとともに一体で推進している。また、笹間地区の未来図として描いていた絵には、「産直青空市」、「味噌加工施設」、「高齢者対応施設」などが表現されており、これらは地区の皆さんの思いとして描かれているものと認識しているが、建物の建設が全てではなく、地区ビジョンの課題の解決によってこのような「まち」を作り上げていくという地域の皆さんの意思の表れと捉えている。 少子化の進展は大きな課題となっている。結果、学校の小規模化や複式学級等の様々な課題が出てきており、平成20年に花巻市立小中学校の学区再編にかかわる基本方針を示し、当地区でもいろいろ御協議いただいたところ。その後10年を経過し、現在に至っているが、子どもの数がこの30年間で約半分となり、現在は、7123人。合併後でも市全体で約2割減少しており、西南地区は、これをやや上回る減少率となっている。 このような状況下で新たな基本方針を、平成27年度から第2期教育振興計画の中で着手しており、有識者による保育教育環境検討会議や保護者やPTAなどの関係者によるワークショップを重ね、いただいた意見も反映させてこの度、仮称花巻市立小中学校における適正規模適正配置に関する基本方針の案をまとめた。この案では、20年後の平成50年まで推計値を出しているが、市内の小中学校の児童、生徒数合わせて今よりも更に1,650人減少する見込みとなっている。 笹間地区は、現在、笹間第一小が131人だが107人、笹間第二小は18人から9人へ減少、西南中学校は今142人6学級が85人の3学級程度になる見込み。そうすると、現在の教育環境を保つのは非常に厳しくなってくると予想される。そこで、この基本方針はあくまで案の段階だが、10月から中学校区単位で説明会を開催し参加者から意見をいただきその意見も踏まえながら時間をかけて検討していきたいと考えている。ぜひ多くの方々に参加いただき、地区ビジョンとあわせて、西南地区を視野に入れた意見をいただきたいと思う。
2	H30.9.18	市政懇談会	笹間	建設部	道路課	花巻市まちづくり計画長期ビジョンにおける笹間未来図について②	(仮称)道の駅西南の周辺環境について、平成28年度は540万円、29年度は2,860万円の基本構想、基本設計に取り組んで頂いた。 平成30年度は、当初予算は9,700万円、6月補正5,300万円。今年度は、実施設計と用地買収などに充てられると聞いており、今年度の予算も含めて約1億8千万円もの予算が投入される。 道の駅開設予定地を含む西南中学校周辺は、国土交通省が提唱する小さな拠点のような地域として整備していくことが望ましいと考える。 また、人口減少と超高齢化社会でよく言われている、買い物弱者、交通弱者など日常生活を営む上でも、行政サービスの観点からも様々な機能が集約されていくことが望まれる。 笹間未来図には、そういう考えを描いており、笹間駐在所、笹間振興センターについても、ビジョンに沿って西南中学校周辺にと要望しており、まちづくり総合計画長期ビジョンのとおおり、地区ビジョンが総合計画と一体的に推進されることを期待している。 (仮称)道の駅西南についても、笹間地区ビジョン中の【産直青空市】が具体化されたものと理解したいところであるが、改めて笹間地区ビジョンが市において認知されているものか伺いたい。	道の駅は、この施設を核とした地域の連携強化を図り、道路利用者に安全で快適な交通環境を提供、また、公共交通不便地域による買い物難民の増加や地域活力や生活サービスの質の低下などの多くの地域課題を解決するため太田、笹間地区への道の駅の整備を進めている。市では、道の駅の基本構想を平成28年度に策定し、平成29年度に基本設計を進めてきた。今年度は、道の駅の実施設計を進めており用地取得も、ほぼ地権者さんの同意は得られている。今後は用地の取得と一部造成工事を予定している。 道の駅の隣接地には、コンビニエンスストアの設置を予定しており、現在プロポーザル方式によって公募を進めている。今数社から手が挙がっており、今後、選考を行う予定としている。 今後も、国及び県へ要望を行っていくが、県は10月に公共事業評価を予定しており、決まれば来年度予算化へ向けて動くようだ。いずれ、実施設計を進めてる中で、事業費等について精査し、地域の御支援もいただき進めていきたい。 建設部は一生懸命動いていただいている。ぜひ、地域の方々にも意思統一いただき団結して支援していただくようお願いしたい。何か要望がある際は、建設部へ伝えていただくようお願いしたい。

番号	年月日	種別	地区名	担当部	担当課	参加者発言趣旨 (タイトル)	内容(要旨)	懇談会での回答(現状・取り組み状況等)
3	H30.9.18	市政懇談会	笹間	消防本部	消防本部警防課	笹間地区の救急体制について	横志田及び尻平川地区は、救急車が到着するのに20～30分ほどかかる。これだけかかると助かる命も助からない事も起こり得るが、この地域の救急救助体制について伺う。	横志田、尻平川地区の平成25年から29年までの5年間における救急搬送人員は合計53人で年平均10.6人と、当市消防本部全体の搬送割合の0.24%。また、救急車が現場に到着するまでの消防本部における平成29年の平均時間は8.5分に対し、当地区は、平成25年から29年まで5年間の平均時間は17.21分。このため、当地区において救命に支障をきたすのではという御指摘は理解している。 現在、当地区への救急出動は、花巻中央消防署から出動し、さらに要請があった場合は、花巻南温泉分遣所から出動する区分として対応している。救命には心停止の予防に加え、心停止の早期認識と通報、そしてその場に居合わせた人が行う心肺蘇生法とAEDを活用した一次救命処置により救急車が到着するまで行う救命処置が非常に大切なため、消防本部では、救命に必要な応急手当を広く一般市民へ普及するため、応急手当講習会を開催している。また、地理的要因などを含め救急車の到着まで相当の時間を要すると予想される場合には、119番通報を受付する通信指令員が、要請内容を聞き取りながら、適切な救命処置法の説明指導を行っている。 今後も、現状における理解と協力を得ながら、応急手当講習会を積極的に受講していただき、救急車が到着するまでの「大切な命の救命リレー」を推進していきたい。
4	H30.9.18	市政懇談会	笹間	総合政策部	防災危機管理課	田沢堤の災害時における避難情報の伝達について	笹間地区には、田沢堤もあり震度5強程度で決壊の恐れがあると言われているが、その際の避難情報の伝達はどのように行われるのか伺う。	溜池に関する避難情報の発令基準は、花巻市避難勧告等発令伝達マニュアルの中で震度5強以上の地震発生時に災害対策本部を設置し、横志田、栃内、中笹間、北笹間の四つの行政区に対し避難勧告を発令することとしている。避難勧告を発令する際は、エリアメール、FM花巻、消防団による巡回広報、また、市のホームページ等に掲載。その他に自主防災組織に連絡し地区内での情報伝達や安否確認といった活動をお願いしている。 避難勧告の発令後、市で溜池の確認を行い崩壊の危険性があると判断した場合は、避難指示(緊急)を発令し、同様に伝達を行う。もし避難所まで逃げる時間がない場合は、例えば建物の2階以上の高い所へ避難する垂直避難も有効。いずれこの避難勧告等が発令された際に安全に避難するため、平常時よりハザードマップを全世帯配布しており、こちらを確認いただき避難する際のコースが浸水するかどうか、マップに日ごろから書き込んでおくということも非常に有効である。なお、市で現地確認した結果、新たな災害のおそれなく避難勧告の解除を判断した場合は、先ほど申した各種広報の他、自主防災組織へ連絡することとしている。
5	H30.9.18	市政懇談会	笹間	建設部	道路課	道の駅の防災機能について	(仮称)道の駅西南は、防災機能を併せ持つ道の駅として構想され、基本設計では備蓄倉庫10坪程度想定されているが、もう少しその機能を充実させることが望ましいと考えている。市の考えを伺いたい。	道の駅の基本設計については、昨年度に各地域等で説明会を行い意見も踏まえ策定しており、おおむね御了承いただいたものと考えている。 その中で、備蓄倉庫については、道路利用者の一時的避難場として想定しており、今後どのような物を備蓄していくべきか検討を協議してまいりたいと思っている。いずれ県へ一生懸命お願いをしているが、なかなか厳しい状況のようだ。

番号	年月日	種別	地区名	担当部	担当課	参加者発言趣旨 (タイトル)	内容(要旨)	懇談会での回答(現状・取り組み状況等)
6	H30.9.18	市政懇談会	笹間	建設部 消防本部	道路課 消防本部総務課	道の駅へのヘリポート開設及び西南分署の配置について	消防防災はもとより、救急救助体制と機能の充実強化策として、道の駅の防災機能充実のためにヘリポートが開設できる施設配置及び安心安全をつかさどる西南分署(分遣所)の配置が期待されるが市の考えを伺いたい。	道の駅の予定地には隣接するコンビニエンスストアを計画しており、その範囲については既に農振除外の決定をいただいている。当該予定地は農振地域となっており容易に範囲を広くすることができない。よって、現在必要な面積で事業を進めているためヘリポートが開設できる施設は考えていない。 現在花巻市内には消防署、分署、分遣所が6カ所あり、その内花巻地域には3カ所。中心市街地の材木町に花巻中央消防署、湯本地区に花巻温泉分遣所、湯口大沢地区に花巻南温泉分遣所が設置されている。両分遣所には消防ポンプ自動車、救急車が各1台配備され、毎日3名の職員が交代制で勤務している。 西南地域は、平坦ではあるが広範囲のため救急車の到着まで北笹間や轟木だと10分程度、横志田や尻平川は17分程度思われる。近年、救急車の平均現場到着時間は延伸傾向にあり、当市消防本部の平成29年の所要時間は、8.5分となっている。 救急車などの消防車両の現場到着時間を短縮するため、署所を均等に配置することが望ましいと考えてはいるが、ご提言のあった道の駅への西南分署の配置については、庁舎建設費、車両購入費、人件費など財政事情により、新庁舎建設は慎重に検討を進めなければならない、現状では分署を設置することは難しいと考えている。
7	H30.9.18	市政懇談会	笹間	地域振興部	地域づくり課	花巻市まちづくり計画長期ビジョンにおける笹間未来図について③	当地区のまちづくりビジョンについては、市でも理解し花巻市まちづくり総合計画長期ビジョンと一体で推進していくという考えでよい。	花巻市まちづくり総合計画長期ビジョンは、私の就任前にできたものだが、文言を見るとあまり明確ではない。ここでは各地区の将来像や基本理念など、計画の基本本文の記載はあるが、市がそのとおり実施するとは、あまりはっきり記載されていない。 そもそも各27地区のコミュニティビジョンに各々の未来図について建物一つ一つ検討し精査することはできていなかったと思う。 いずれ、道の駅で地域で作られた物を売るという発想もその中の一つであり、地域の方々に御協力いただきながら市も実現に向けて動いているというのは間違いない。
8	H30.9.18	市政懇談会	笹間	建設部	道路課	道の駅の運営について	道の駅は、市民や観光客がたくさん来て賑わう道の駅となってほしい。そのためには完成後に計画的な運営や将来的に安定経営を続けていくための組織作りが必要だと思う。	道の駅の運営については、地域の行政区長の方々と色々相談させていただいているが、いずれ西南地域を中心とした方々に会社を起し上げ運営していただきたいと考えている。道の駅は産直とは違い公共的な部分もあることから一部の維持管理は、市が指定管理でお願いする部分もあると思う。 道の駅で何を売るのがかについては、店舗を運営する管理会社が決まった段階で、色々アイデアを出していただき、経営として成り立つのであれば非常に良いと思うが、道の駅の管理運営は、あくまで地域の方で考えて、赤字ではなく利益を出すことを第一に運営していただきたいと思っている。
9	H30.9.18	市政懇談会	笹間	建設部	道路課	道の駅への道路情報施設の配置について	道の駅は、北上市の工業団地へ通勤する方も多く利用する道路沿いにあることから、道の駅に道路や防災情報の拠点という位置付けとなることを岩手県に提言すれば東芝などの大手企業に通勤する方々の安全確保という観点からも、本気となって考えてくれると思う。	今回の道の駅は、道路情報等の情報発信の施設は、県で造ることとなる。他の道の駅でも道路情報については、随時出るようになっており、同様に北上市だけではなく、県内への道路情報等がわかるような形となるよう県へお願いしてまいりたい。
10	H30.9.18	市政懇談会	笹間	総合政策部	防災危機管理課	田沢溜池への監視システムの設置について	田沢溜池に行く道路は、あまり整備されておらず、災害時に現地に行くことと二次災害の危険性があると思う。堤防に監視できる機器を設置することで、現地に行かなくても状況がわかるようなシステムを導入することも検討してみてはどうか。	御意見いただいたとおり、溜池に行くための道路状況はあまり良くないことは承知しており、溜池の管理者とも協議をしながら、どのような形が良いのか検討していきたい。

番号	年月日	種別	地区名	担当部	担当課	参加者発言趣旨 (タイトル)	内容(要旨)	懇談会での回答(現状・取り組み状況等)
11	H30.9.18	市政懇談会	笹間	健康福祉部 教育部	地域福祉課	子どもの貧困対策について	現在、子どもの7人に1人は貧困といわれておりとても多いと感じている。だが、笹間に住んでいるとあまり実感はないが、花巻市の子どもの貧困実態について市ではどの程度把握しているのか。	全国的に子どもの貧困は大きな問題となっているが、岩手県では実態が把握出来ていなかった。そこで、岩手県が中心となり子どもの実態調査を大規模に行い現在集計中。この集計結果がまとまれば、子どもの貧困の実態についても状況が見えてくるだろう。現在、市でも子育てに関する様々な事業を行っているが、この結果を県からお聞きした上で、市内でも、地域毎や養育環境などの様々な要因があることから、実態を踏まえながら分析し、将来的なことも見据えながら対策を検討していきたい。 また、地域で経済状況が厳しい家庭等の情報があれば、教育委員会に情報提供いただければ保育園、学校とも連携しながらサポートしていきたいと思うのでよろしくお願いしたい。
12	H30.9.18	市政懇談会	笹間	農林部	農村林務課	鳥獣対策について	今年は、熊の出没が多く、田んぼで農作業をしていると鹿が道路を横切っていくのをよく見かける。熊が出没すると消防団でも注意喚起をしているようだが、市内の熊や鹿などの捕獲状況について伺いたい。	熊は県から権限をいただいている枠があり、罠を仕掛ける等して捕獲している。石鳥谷地域や北上山地へ多く出没しているようだが、子どもの通学に危険がおよぶ場合は、別途県から許可をもらい捕獲している状況。 鹿の捕獲については、国からの補助金と市の単独予算で対応しているが、平成29年度は、雪が多く猟友会の協力体制が図られたこともあり、多くの鹿を捕獲することができた。今後も国からの補助金や必要に応じて市単独予算を増額する等して捕獲するための予算は確保したい。だが、猟友会の人数も限られており、確保できる数には限界がある。特に北上山地に多く鹿が出没していることから罠を多く仕掛けて捕獲しようとする動きもあるようだ。いずれ、市でも多くの鳥獣を捕獲するためにできる限り支援していきたい。
1	H30.9.25	市政懇談会	大迫	大迫総合支所	大迫総合支所地域振興課	今後の日本ワインフェスティバル開催について	大迫の中心市街地活性化のために、日本ワインフェスティバルが必要と考えるが、来年の開催について伺いたい。	日本ワインフェスティバルは、昨年初開催して大変好評を得たので、今年度も、大迫を中心とする岩手県がワインの産地だということを大迫から発信し、さらには大迫の町なかの商店街で日本ワインのイベント開催することで町なかの活性化に結びつけたいとの目的で開催した。 このイベントは大迫地域の中心市街地の賑わいのために有効だと認識しており、実行委員会やワイナリーの方々などから、来年の開催について前向きなご意見をいただければ、市としてそれを大いに支援していきたい。
2	H30.9.25	市政懇談会	大迫	大迫総合支所	大迫総合支所地域振興課	ワインフェスティバル開催範囲について①	イベントに限られた範囲で開催されているが、より地域の商店街活性化になる取り組みになるように願いたい。	今までの2回のイベントの場所は、仲町交差点から大迫交流活性化センターまでの市道を車両通行止めにして開催した。盛岡や花巻北上からの送迎バスの利用客と、駐車場やワインシャトーからのシャトルバスの利用客を町の中心部まで運ぶためには、川原町や仲町の交差点から下町方面までを交通規制することは極めて難しいと考えている。 2回目の今回は、会場から約100m離れた信用金庫前をシャトルバスの乗降場所とし、そのバスを利用した来場者が、交通規制をしていない商店街を歩いて通るような流れを工夫したが、今後も、皆さんからのご意見をいただきながら、町なかの賑わいが広がっていくことを考えたい。
3	H30.9.25	市政懇談会	大迫	大迫総合支所	大迫総合支所地域振興課	ワインフェスティバル開催範囲について②	日本ワインフェスティバルは、大迫にワインまつり以外でお客さんが来てくれる素晴らしいイベントであり、皆さんに楽しんでいただいていると思うが、今後は、中心市街地の活性化という面では、中心市街地のなかで、もう少し会場を分散してお客様に町並みを歩いていただけるようなエリアをつくったほうがいい。 例えば、川原町公民館のあたりまでをエリアにして、お客さんに散策してもらい、商店の人は自分の店の前に出店して賑わいに一役買ってもらうようなこと。 交通の件は、大迫パイパスのJASTANDから入って、柳橋のところをバスの乗降場所にし、そこからお客さんに歩いてもらってもいいと思う。	今までの2回は集中して1ヶ所で行うことにより、大迫の町なかにおけるイベントの賑わいを全国に発信してきた。 今後は、町なか、例えば川原町のほうに分散するという考えもあると思うが、分散開催すれば実行委員や支所職員では対応しきれなくなると思うので、商工会議所など地域の方々と協議しながら、町なかの賑わい拡大を目指していきたい。

番号	年月日	種別	地区名	担当部	担当課	参加者発言趣旨 (タイトル)	内容(要旨)	懇談会での回答(現状・取り組み状況等)
4	H30.9.25	市政懇談会	大迫	大迫総合支所	大迫総合支所地域振興課	ワインフェスティバルへの地域の取り組みについて	商店の方々が協力してワインフェスティバルを盛り上げたいが、地域としてどのようなことができるか。	このイベントを今後一層盛り上げるためには、多くの方々がかわわっていくことが大切だと思う。そのために、商店街をはじめ大迫地域の住民の方々にも参画していただいて、さまざまな形の連携が図れるよう、今後、実行委員会で協議を進めていきたい。
5	H30.9.25	市政懇談会	大迫	大迫総合支所	大迫総合支所地域振興課	イベント企画の際の日程調整について	市では、イベントの重複が多いと思う。事前に重複とならないような対策を、イベントを企画する実行委員会の方々に考えていただきたい。	日本ワインフェスティバルは、昨年は消防演習と重複したが、今年は、消防演習を避けて5月下旬に開催した。来年も開催する場合には既存の行事と極力重複しないように進めたい。
6	H30.9.25	市政懇談会	大迫	建設部 大迫総合支所	都市政策課 大迫総合支所地域振興課	大迫パスターミナルについて	岩手県交通のパスターミナルがなくなっても、石鳥谷線や花巻線は残るので、当然休憩所が必要だと思うが、市では待合室を作る計画はないか。	岩手県交通では、12月末で内川目・外川目路線を廃止すると同時に、大迫パスターミナルを閉鎖し1月以降解体すると聞いている。 現在のパスターミナルがなくなった後、隣接する個人商店から、お店の一角を待合スペースに提供してもよいというお話をいただいたので、1月以降は、そこでバスを待つことが出来ると思う。また、バス利用者のために仮設トイレの設置を予定している。待合所を設置することについては内部で協議を始めている段階。
7	H30.9.25	市政懇談会	大迫	教育部	教育企画課	小中学校の統合について	数ヶ月前に、各地区の小中学校の統合についての話があったと記憶している。大迫は、中学校一つ、小学校一つとのことであった。現実的に、内川目小学校、亀ヶ森小学校とも二十数人の規模となっている。今後、統合も近いと思うが、いつ頃の段階でそういう方向性が出てくるのか。	今の時点で何年度に統合ということではない。 現在の児童数は、大迫小学校で91人、内川目小学校が23人、亀ヶ森小学校が22人である。やはり学校であるので、子ども達にとって望ましい教育ということで議論の素材としてお出ししたところである。このことについては、地域で様々なご意見もあると思うので、今後、中学校の学区単位で説明会を開催していくが、地域で希望があれば、さらに小さい単位でご説明をしながら、花巻の子供たちが健やかに育っていくためのご意見をいただいきたい。
8	H30.9.25	市政懇談会	大迫	建設部	建築住宅課	空き家に住みついた小動物について	昨年の懇談会でも話題となったが、空き家に小動物が入り込んで、近隣の住宅等に被害が出てきていると聞いている。こういった場合の相談先が分からない方が多い。どこに相談すればいいか教えていただきたい。	いわゆる危ない空き家等については、特定空き家として行政代執行できる場合があるが、それはよほど危ない場合である。空き家には、実際住んでいなくても持ち主という方が存在している場合があり、市で簡単に解体は出来ない。 空き家の近隣の方が、空き家への小動物の出入りを覚知した場合、その小動物が危害を及ぼすようなものの認識であれば、一旦、建設部の建築住宅課にご相談をいただきたいと思う。支所を通じてでもいいので、まずは相談していただきたい。 市で把握している空家等や、新たな空家で所有者や近隣住民等から、苦情があった場合は現地を確認するとともに、管理が不十分と見受けられた場合は、その所有者等に対して「適正な管理のお願い」の文書を送付し、空家等の適正な管理を促している。 空家等は、基本的には所有者等の個人財産であり、その管理は自ら行うことが原則。 空き家についての苦情や相談がある場合は、建築住宅課に連絡をお願いしたい。

番号	年月日	種別	地区名	担当部	担当課	参加者発言趣旨 (タイトル)	内容(要旨)	懇談会での回答(現状・取り組み状況等)
1	H30.9.28	市政懇談会	湯本	健康福祉部	長寿福祉課	介護予防・生活支援サービス事業について	当地域では、これから「介護予防・日常生活支援総合事業」を取り組んでいく予定であるが、まだまだ地域では本事業について知られていない。この機会にお集まりの方々に概要についてお話し頂きたい。	平成29年4月に開始した「介護予防・日常生活支援総合事業」は、地域の支えあいにより介護予防や日常生活の自立支援を目指すもので、「介護予防・生活支援サービス」と、「一般介護予防事業」の2つからなっている。 「生活支援」は、要支援認定者など生活機能が低下している方に対し、日常生活の支援を行うもので、従来の訪問介護・通所サービスの内、掃除やゴミ出しなど利用者の体に触れない簡易な支援について、民間事業者やNPO団体に加え、所定の研修を受けた住民ボランティアが支援を提供できるものである。現在、花巻地域では宮野目地区、笹間地区、太田地区、高松第三行政区、大迫地域では亀ヶ森地区、石鳥谷地域では、八日市地区、八幡地区の合計7つの地区においてボランティア組織が立ち上がり、生活支援に取り組んでいただいている。 現在、住民ボランティアによる生活支援利用者は市内全域で24名。登録者数は157名で内湯本地区は10名と利用者、登録者ともまだ少ない状況である。湯本地区においては、早くから『生活支援』の取り組みを検討いただき、9月4日には「湯本地区介護予防・日常生活支援総合事業の実行委員会」を開催し、今年度中の取り組み開始を目指していると同っている。 『生活支援』は、ひとり暮らし高齢者や高齢者世帯が増え続ける中、住み慣れた地域で暮らし続けるための住民同士の支えあいの仕組みであると同時に、地域における生活支援の充実・強化と高齢者の社会参加が一体的に図れるものである。 今年度より、「除雪」や「自動車による買い物、病院等への付き添い」等のサービスを新たに加え、その運営費に対し、市が補助を行う制度を創設したところであり、地域ぐるみでの更なる取り組みが期待できるものと考えている。「生活支援」については、ご近所同士の支えあいの仕組みとして、今後も普及拡大に向け周知を図るとともに地域の団体の組織化についても支援していきたい。 また、一般介護予防については、湯本地区でも適いの場として、10カ所で行っている元気でまっせ体操を中心とした地域の自主的な活動を支援している。こうした通いの場を中心とした介護予防の活動も今後、市全域に広めてまいりたいと思っている。
2	H30.9.28	市政懇談会	湯本	健康福祉部	長寿福祉課	今後の高齢化について	花巻市の高齢化率は何％か。また、今後も高齢化は進むと思うが、市ではどのような認識か。	高齢化率は、平成30年3月末時点で33.2％。高齢化の状況については、65歳以上の方は、概ね頭打ちだが、75歳以上の高齢者の方は、団塊世代の多くが2025年に75歳を迎えるため、今後更に増えていく見込み。やはり高齢者の方々にはいつまでも元気でいただきたいが、介護保険が必要になった方には、各々必要に応じて十分なサービスを提供し支援していきたいと思っている。 今、平均寿命は男性が約80歳、女性は約86歳。今後は更に平均寿命が延びると言われている。それに伴い高齢者のための予算は今後も10年以上は増え続けると思うが、特に介護の担い手不足が深刻で、いつまで維持できるものか大変な問題。特に東京では深刻な問題で、国も外国人就労者については、介護のほか様々な分野で拡大する方向で本格的に動いている。 70歳を過ぎても元気な方は、地域のために必要なサービスを提供していただくことで年金のほかに収入も得られる。やはり地域で支えあいながらお互いに上手く回る仕組みを考え取り組んでいく必要があると思っている。
3	H30.9.28	市政懇談会	湯本	健康福祉部	長寿福祉課	生活支援の効果的な周知について	介護予防・日常生活支援総合事業については、これまで何度か説明を聞いてきたが、話だけではわかりづらい部分もある。例えば、実際に他地域で取り組んでいる事例の映像や写真を地域の説明会の際に見せる等することで、視覚的にもわかりやすく伝わらと思うがいかがなものか。	やはり画像や映像を使って説明したほうがわかりやすいことから担当課で検討したいと思う。 10/1号の広報で、はなまきファミリー・サポート・センターの取り組みについて紹介する記事を掲載しているが、活動の様子を写真を多く使うことで視覚的にも分かりやすくなっており、同様に、生活支援の様子についても写真を掲載している。他にも何か気づいたことがあれば遠慮なく担当課まで意見いただければと思う。

番号	年月日	種別	地区名	担当部	担当課	参加者発言趣旨 (タイトル)	内容(要旨)	懇談会での回答(現状・取り組み状況等)
4	H30.9.28	市政懇談会	湯本	健康福祉部	長寿福祉課	介護予防の取り組みについて	体が弱ってからの支援も必要なことは承知しているが、いつまでも元気で生活するためには、特に予防に力を入れるべきだと思う。先ほど、元気でまっせ体操の取り組みについてはお聞きしたが、他に市で取り組んでいる介護予防についてお聞きたい。	市では、介護予防の取り組みとして、通いの場において大阪の元気でまっせ体操を中心に積極的に推進している。市内では102箇所、約2,000名以上の方がそれぞれの地域で活動していただいており、今後さらに普及に努めていきたい。 もう一つは、様々な介護事業所をお願いしているのが、体力をつけるために機械を使った介護予防事業を実施している。だが、あまり周知が図られていない部分もあるため、今後も介護予防事業については周知を図り積極的に取り組んでいきたいと思っている。 なお、湯本地区は、通いの場が10箇所あるが、他に高齢者が集う場において、介護予防の取り組みについて様々指導させていただいている。参加者の男女比は女性が約8割超、男性が2割弱。平均年齢は、女性が76歳、男性が77.3歳。国では75歳以上の通いの場への参加率を1割と目標としているが、花巻市は1割以上となっている。 やはり通いの場には、男性の参加者が、余り多くないようだ。早稲田大学が埼玉県の本庄市民を調査した結果によると、農家世帯は非農家世帯に比べ健康寿命が10歳長いとのこと。やはり日ごろから体を動かすことで健康寿命への影響が大きいようだ。介護予防のためにも女性は日頃から家事等をする中で体を動かす機会も多いと思うが、男性は、家庭菜園や草刈りや地域活動になるべく参加するなどして体を動かしてもらい、長く健康でいただければと思う。
5	H30.9.28	市政懇談会	湯本	健康福祉部	地域医療対策室	総合花巻病院の医療体制について	総合花巻病院が建設中だが、入院しても中部病院のようにすぐ退院を促されることにはならないのか心配している。やはり、治療が必要な患者はある程度の期間は入院して体を静養することが必要だと思う。総合花巻病院はそのような病院にお願いしたいと思っている。	総合花巻病院は、基本的に例えば中部病院で手術を受けた方が数日で退院させられた際に、再入院してある程度の体力がつくまで病院に居られるような主に回復期を担う体制となる。 また、地域包括ケアということで、家庭で過ごしている方が体調を崩した際や、同じ敷地内に老人ホームを併設していることから入居者が体調を崩した際は、病院で受け入れる体制が構想として出来ている。構想を作る際は、岩手医大の理事長や中部病院の院長など医療関係者からも意見をもらい地域に必要な病院ということで理解いただいている。
6	H30.9.28	市政懇談会	湯本	建設部	道路課	土木要望について	土木要望の提出期限が9月末となっているが、前年度要望した分の市からの回答が7月末頃と遅く、地域内で取りまとめする期限があまりない。予算は、議会の承認が必要であることから、ある程度の時間を要するのは理解できる。しかしながら、3月議会後には新年度の予算の状況は分かると思われる。方向性だけでも良いのもっと早く地区へ説明いただけないものか。	市の新年度予算は3月定例議会後には分かるが、道路整備には国から社会資本整備総合交付金と防災安全交付金が必要。ここ数年は、国からの交付金が潤沢にきているが、国から交付金の内示があるのは例年6月末頃となっている。また、次年度の予算要求も10月頃から取り掛かることから、例年市からの回答は7月頃となり、次年度の要望は9月末までに市に提出いただく必要がある。よって、スケジュールはなかなか変えることはできない。建設部の職員はとても頑張っており、決して怠けているわけではない。お気持ちはよく分かるが、ぜひ協力をお願いしたい。
7	H30.9.28	市政懇談会	湯本	健康福祉部	長寿福祉課	生活支援事業の取り組み状況について	湯本地区では、「生活支援」のためのボランティア団体を起ち上げるべく社会福祉協議会からも支援いただき動きは始めているが、事務所や人員配置などの予算もなく、現時点で利用者も少なく余り需要がないと感じる部分もある。実際問題として、どうスタートしていったら良いものか、まだ多くの課題があると感じているが、既に取り組んでいる他地区の実態などお伺いしたい。	現在、生活支援サービスの利用者は24名。利用者が一番多いのはシルバー人材センターが14件程で全て東和地区。地域では、宮野目や八幡等で取り組んでいるが、まだまだ少ない状況。理由としては、この制度ができる前からの利用者は、従前の事業所を引き続き利用していること。また制度の周知が進んでいないということもあるが、逆に地域の方々に余り迷惑をかけたくないという思いの方もいるようだ。包括支援センターや市役所に相談があった際は、周知をしているが、なかなか利用者が増えていないのが実態。実際にサービスの様子を見てみたい場合は、長寿福祉課に相談いただきたい。なお、実際に行われているサービスの多くは掃除やゴミ出しがほとんどであることから、地域の方々にとっては、簡単にお手伝いできる部分と思っている。 まだ、利用実績は少ない状況だが、地域の方々と懇談会を行っていることから、地域の様々な事情や課題についてはお聞しており、市からも情報提供できればと思っている。よろしく願いたい。

番号	年月日	種別	地区名	担当部	担当課	参加者発言趣旨 (タイトル)	内容(要旨)	懇談会での回答(現状・取り組み状況等)
8	H30.9.28	市政懇談会	湯本	健康福祉部	長寿福祉課	生活支援事業の他地域での 取り組みについて	この生活支援事業は本当に献身的に取り組んでみようというボラン ティア精神がないと、実際は始めることが難しいと思うが、現在、既に取り 組んでいる他地区の団体はどのような方々が中心となっているのか。	現在、市内7カ所の地域で団体を立ち上げているが、宮野目地区は 「宮野目地区有償ボランティア事業推進協議会」を振興センター内に事 務局を構え、除雪等や独自の事業(サービスB)を11月頃から行う予定で ある。太田地区は、「太田地区生活支援ボランティア協議会」を同じく振 興センター内に事務局を構え、除雪については従来から行っている独 自のボランティアを続けながら、サービスAも続けていくこととなってい る。笹間地区はコミュニティ会議が団体として生活支援を担うというこ とで、振興センター内に事務局を構え、体に触れないサービスに加え除 雪も追加し検討いただいている。亀ヶ森や八幡地区もコミュニティ会議 で事務局を担い取り組んでいる。高松行政区は他の地区とは違い、 元々地区で助け合いということで農業等の様々な取り組みを行っていた が、「ふるさと高松元気村」という独自組織を立ち上げ生活支援だけで はなく、広く地域の問題に対応するサービスを独自展開いただしてい る。既に取り組んでいる地域でもコミュニティ会議が中心となり行ってい る所や、別組織を立ち上げて取り組んでいる地区もある。
9	H30.9.28	市政懇談会	湯本	生涯学習部	生涯学習課	花巻図書館の進捗状況につ いて	花巻図書館いつ頃できるのか。進捗状況をお伺いしたい。	花巻図書館は現在、場所の選定をしているところ。今年中には目途が つけられればと思っている。場所が決まった後は、建物の規模や中身 について、専門の組織を作り、市民の意見をいただきながら、基本設 計、実施設計と進めていくこととなるが、建物が完成するまでは、おそら く後4年程度はかかると思われる。